

サステナビリティ・ウィーク2008の開催

G8北海道洞爺湖サミットに先駆け、6月23日から7月11日までの3週間は「Sustainability Weeks 2008- G8 Summit Round」と名付け、サミット最大のテーマである地球温暖化対策を視野に、「持続可能な社会」の構築に向けて、国際シンポジウムや市民講座を集中的に開催しました。これは、『持続可能な社会づくりに向けた研究・教育推進キャンペーン』と呼ぶべきもので、国内外から研究者・教育関係者・市民・学生が参加する、議論と情報発信の機会です。

このキャンペーンで実施した学術行事は50企画、講演した研究者は約300人、講演企画の参加者は約

6,400人、展示企画の参加者は約20,000人を越えました。企画の分野は、気候・環境変動や食糧、水、生態系、人材育成、平和、人権など幅広い分野にわたり、「持続可能な開発」に関して自然科学、社会科学両側面から議論が行われました。

7月8日には国連の潘基文（パン・ギムン）事務総長の訪問を受けて「世界的食糧問題を考える－国連事務総長と北大生との対話集会」と題した特別講演会を、本学の学生215名の参加のもと開催しました。

このように「持続可能な開発」に関連するこういった数多くの学問分野の研究者が世界中から集う学際的事件として、世界に例のない規模とインパクトを持つ企画となりました。

また、当事業のウェブサイトには、3ヶ月で約28,000人がアクセスし、ウィーク中に学内に開設した臨時のインフォメーションセンターには3週間で約1,800人が訪れました。また、外国報道関係者向けのプレス・ツアーや東京で記者会見を行うなど国内外への広報に力を入れたことから、新聞・雑誌等に掲載された関連記事は140以上となりました。

なお、サステナビリティ・ウィーク2008が成功裡に終了したことを受け、佐伯総長は今後も毎年、ウィークを開催することを決定し、「持続可能性」に係る世界の研究者や高等教育関係者の活動を英語で受発信するウェブサイトの充実など、研究や教育の多様な協働ネットワークを形成し、将来のさらなる国際的な研究連携や教育連携の促進を図ることとしています。



佐伯総長開会挨拶



基調講演を行う潘国連事務総長



文部科学省清水高等教育局長来賓挨拶



ポスター

6/23 朝日新聞(全国版)

G8大学サミットの開催

北海道洞爺湖サミット開催を機に、G8諸国及び非G8主要国合計14カ国の大学並びに国連大学の合計35大学の学長等約140名が参加し、「グローバル・サステナビリティと大学の役割」をテーマに、6月29日から7月1日の間、G8大学サミットが札幌市で開催されました。

このG8大学サミットは、国内参加14大学が運営会議を構成し、このうち本学と東京大学、慶應義塾大学が中心となり、開催準備を進めてきたもので、G8諸国の主要大学の学長が一堂に会し、ひとつのテーマを討議するというこれまでに例のない会議であり、歴史上初めての試みでした。

会議では、地球の持続可能性（サステナビリティ）を達成するための調査・研究や教育など大学の役割を認識し、また、大学自らのサステナビリティの達成に向けて取り組んで行くことを約束するとともに、G8北海道洞爺湖サミットに参加する首脳たちに対して気候変動問題等に対する科学的で適正な政策の実施を求める「札幌サステナビリティ宣言」を採択しました。

参加大学は今後もサステナビリティに向けての取り組みを他の大学に広げる努力をするとともに、政策レベルでの対応の促進を図っていくこととしており、次回G8大学サミットを、イタリアで開催することが合意されました。

なお、「札幌サステナビリティ宣言」については、7月4日に佐伯総長を始め、東京大学総長、慶應義塾長、トリノ工科大学長、イタリア大学学長協会事務局長及びエコール・ポリテクニク学長が首相官邸を訪問し、福田総理大臣（当時）に宣言の手交及びG8大学サミットの報告を行いました。



全体会議での佐伯総長分科会A趣旨説明



記者会見の様子



ウェルカムパーティーでの渡海紀三朗文部科学大臣による来賓挨拶



福田総理大臣への手交

北方墓参への協力

内閣府からの協力要請を受け8月18日から24日にかけて、練習船「おしよろ丸」による北方領土墓参航海を実施しました。

今回の墓参航海は、本学に課せられた社会的使命である地域的社会的貢献を果たし、かつ、教育研究成果等の公表に資するものとなるとの判断から受諾したものであり、本学が北方領土墓参航海に協力するのは、平成6年の練習船北星丸（平成13年度末廃船）以来14年振りです。

本航海には元島民ら30名と同行者11名、本学事務スタッフ4名計45名が乗船し、歯舞群島へ向け20日、花咲港を出発しました。途中強風などの悪天候で水晶島上陸の中止が懸念されましたが、その後天候も回復し、水晶島の秋味場墓地、翌日には秋勇留島のオタモイ墓地、勇留島のトコマ墓地計3か所に上陸し、北海道主催による慰霊祭が予定どおり行われました。

なお、墓参団が高齢のため本学事務スタッフも上陸し、伴走船への乗り入れの介助や、慰霊祭用物品運搬の支援などを行いました。

また、航行中の船内では、墓参団員に対して「おしよろ丸」船長による同船の北洋60日航海における教育研究、洋上実習、各種海洋調査等に関するレクチャーを行い、本学の教育研究活動及び水産海洋への理解や関心を高める大変良い機会となりました。



慰霊祭が行われた3島



おしよろ丸

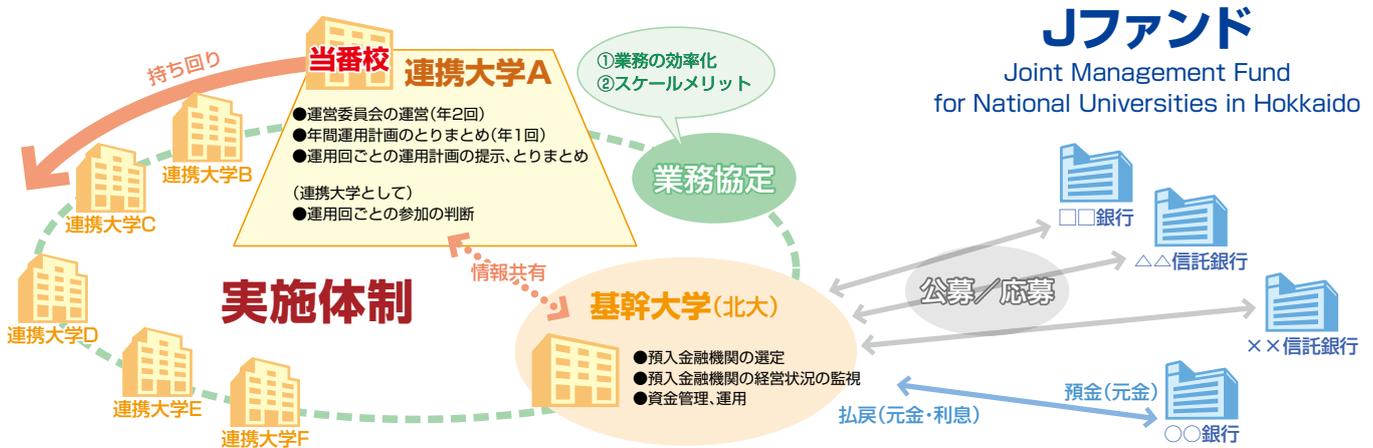


おしよろ丸船長によるレクチャー



オタモイ墓地での慰霊祭の様子

北海道地区国立大学法人資金共同運用（Jファンド）



北海道地区国立大学法人が資金運用業務を共同で実施することによって、当該業務の効率化を推進するとともに、効率的な運用を図り、その利息をもって北海

道地区国立大学法人の教育研究の発展に資することを目的として、Jファンド運営委員会を設置し、平成21年3月23日をもって業務協定を締結しました。